

大津島データ 170 世帯
人口 232人 男 94人 女 138人
高齢化率 80.1%
(令和元年5月31日現在)

潮流

題字：末兼南子さん 写真：すだいたいスカッシュ（島食堂 ひなた）



そんなに大事な物だったとは…



大津島駐在所 衛藤 豊文

私が4月15日午前6時40分頃、船着き場警戒のため、歩いて向かう途中、ふと、防波堤の切れ間から砂浜に出たところ、そこに漂着した観光案内板1枚が目についたので。そこで、調査後に処分しようと思いい、駐在所に持ち帰りました。

表題『弘法大師御野宿所・十夜ヶ橋・永徳寺』から判明した『愛媛県大洲市』の寺院に電話をすると、「ご住職から、「その案内板は、昨年の水害で流されたものです。どのように対処するかは、検討して再度連絡します。」との返答であり、所内で保管することにしました。

私は、「水害」と聞いて、大津島でも土砂崩れがあった。『昨年7月の西日本豪雨』に思いが至り、調べてみると、『大洲市では甚大な被害があり、永徳寺も本堂が浸水、復興中である』ことが分かったのです。

その後、5月8日、「ご住職から5月30日に受け取りに行きます。」との電話があり、詳しく伺うと「昨年豪雨の際、本堂が約3メートル浸水し、この案内板を含め、多数の物が流されてしまい、随分と探していたのです。」などと言われ、この案内板がお寺のご住職にとって、大層大切なものであることが分かりました。

5月30日、住職御一行が来島されました。

私は刈尾港でお出迎えし、途中で案内板の第一発見者『梅子さん』をご紹介した後、駐在所に戻りました。ご住職は、案内板を見られると、書いてあった弘法大師のご詠歌『行きなやむ浮き世の人を渡さずば一夜も十夜の橋と思ほゆ』を朗読され、

その再会を大層喜ばれている様子で、「本堂の再建に向け、力を頂いたように思います。大洲市(おおすし)と大津島(おおづしま)、そして弘法大師、とてもご縁を感じております。お礼の印に祈った御礼を持って参りましたので、地区の方々にお渡し下さい。」と言われた後、帰路着かれました。

この御礼は、刈尾の方々、各地区自治会長などに受け取って頂きました。駐在所に帰ると1ヶ月間余り、駐在所の三和土に置いていた観光案内板は既になく、寂しさを感じました。

とはいえ、この案内板が約10ヶ月振りに、本来いるべき場所に帰ることが出来たのでした。



第2回 島マルチエ開催

文川 友 翔太

5月4日(土)。快晴。五月晴れのもと、「第2回島マルチエ」が開催されました。当日は、徳山から300人を超えるお客様が来島しました。

今回のマルチエは、「古城活魚」と「島食堂ひなた」の2店舗でした。刈尾〜馬島間の道路が分断されていることの影響で、小規模開催となりました。

昨年のゴールデンウィークに続き、2年連続の「古城活魚」(店長 古城涼太さん)。春は、魚の魚種・量ともに豊富で、今年もブリ、アジ、タイ、アジ、ヒラメ、カワハギ、イカなど、ミニ水族館状態。

水槽で泳ぐ魚を選び、活々の新鮮な魚を買うことができます。開店から島民の大行列。皆さんお目当ての魚を指名して、お持ち帰りしていました。その様子は、まるで「お魚ホストクラブ」笑。一番人気は、今年も「イカ」と「カワハギ」でした。

島食堂ひなたでは、100名を超えるお客様に来店していただきました。当日は、島マルチエ限定「すだいたいシヤム」を使ったパウンドケーキを販売しました。今後島マルチエは、毎年ゴールデンウィークに大津島開催。秋には、徳山のイベントへ出店し、島の特産品の販売を行う予定です。

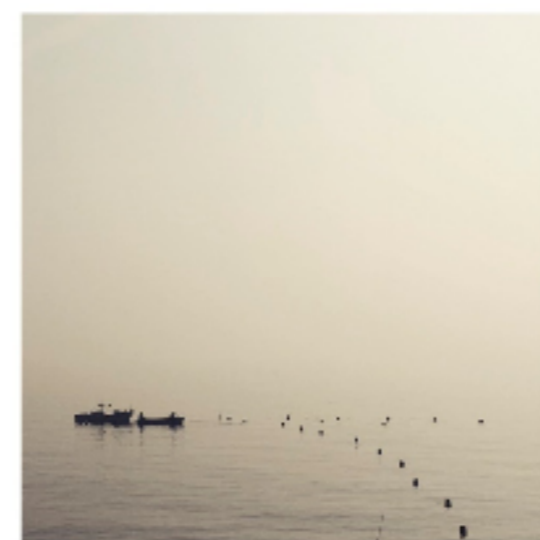


羊の羽は
丘にあり

vol.12

島の暮らし
大津島での暮らしも2年と少し経ちました。思い返すと東京の暮らしもたいぶ昔の事のように感じます。
島を散歩していて、ふと足を止めて眺める日々の風景は、僕にとってもどれも輝く感じます。
この風景の中に生きた過去の人も、今を生きる人も、これからを生きる人も、等しく大切にしてください。そう思うのです。

松田 翔太



島食堂 ひなた

はじめました。

4月28日(日)。馬島に「島食堂ひなた」がオープンしました。店長は、古城昭彦さん。運営は、一般社団法人 霧ノ島が行います。

オープンしてから、多くの島の皆さん、観光客の方に来店していただいております。居心地のよい空間づくり。島の新しい観光資源としての役割。島民や観光客の胃袋を、美味しく満たすために、頑張っています。

お店は、土日祝10時〜14時の営業です。ぜひ皆さま、お気軽にお立ちください。(文川 古城 昭彦)



<人気メニュー 島ぶっかけうどん ¥600>
昔、馬島の冠婚葬祭で食べられていた“うどん”を参考にしました。



16憂うつな季節を鮮やかに彩るアジサイ

文二回天記念館 三崎英和

うっとうしい梅雨に入りましたが、そんな季節の気持ちを和ませてくれるものにアジサイがあります。

島内でも、青、紫、ピンク、白と様々な色の花をよく見かけます。このアジサイの花の色は、その個体によってはじめから決められているわけではなく、ご存知ですか。

アジサイの花の色はアジサイが咲いている土壌が酸性かアルカリ性かで決定されます。具体的には酸性だと花は青系色になり、逆にアルカリ性だと赤系色になります。そのため、青色系のアジサイを赤系にしたければ根の周りに石灰を、逆に青色系にしたければ魚粉や油粕をまくことで変化させられます。

しかし特別に根回りに何もまいていないのに、近く



くに咲くアジサイ同士の花の色が違って見えるものも見かけませんか。これは根から吸収できる成分量が各個体によって違うためだそうです。なお、白色のアジサイは、花の色を変化させる成分をもとと持っているもので、そうした操作をしなくても変化しません。

ところでアジサイの花言葉は、花の色ごとにも決められており、青色は「辛抱強い愛情」、ピンクは「元気な女性」、白系は「寛容」ですが、アジサイ自体の花言葉は「移り気」、「浮気」、「無情」だそうですよ。ちょっと危なっかしいですね。

【7月～8月の主な島の行事予定】

7月 6日(土)～7日(日) 離島青年会議
7月 7日(日) 十人墓供養祭

～安達会長が表彰されました～

令和元年6月1日、安達壽富会長が多年にわたり、コミュニティ推進協議会長として、明るく健康で住みよい地域づくりの推進に尽力され市政の発展に寄与された功績を市長より表彰されました。

【編集後記】西日本豪雨から1年。
今年4月から支所に配属された原田です。昨年度は、雨が多い年となりましたが今年は、新しい風を吹き込みたいと願うばかりです。
文責：原田 和保

第51回 離島青年会議 in 大津島 ～準備進行中～



文＝大友翔太

現在、離島青年会議の準備を、コミュニティが中心となり、準備を進めています。

今回は、県内の離島から、29名の若者が参加する予定です。島内からの参加者、受け入れスタッフまでいれると総勢90名近い人が関わる大プロジェクトです。

また先日からは、交流会で披露する「平家踊り」の練習も本格的にスタートし、移住3人衆(松田翔剛君、内山剛君、磯中皆美さん)も、悪戦苦闘しながら練習に励んでおります。

本人たち曰く、「足が難しい」と嘆いています。

お披露目まで、あと3週間。無事3人は、本踊りまでたどりつき、華麗に扇子マカギ(真影)を切れるようになるのか。今から不安とワクワクでいっぱいです。特に、松田くん。大友は、特に心配です。笑。
当日の3人の踊りは、必見です。

お知らせ

【次回潮流発行予定日】
9月1日 第269号

移動図書館 やまびこ号ジュニア
7月5日(金)、8月20日(火)
刈尾待合所 11:20～12:50
※馬島待合所につきましては豪雨災害による通行止めのため、しばらく休止します。

善意銀行へのご寄付ありがとうございます

▼預託者 ご遺族 安達敏子 様
夫 安達暁 様の香典返しとして
金5万円(市社協1万円、大津島社協4万円)



流れ寄るもの 文二松本千恵子

名も知らぬ遠き島より流れ寄る椰子の実ひとつ。

家の前の海を眺めながらふと思いついた歌。馬島の東方の水場と呼ぶ海岸は、外海に面しているからか、椰子の実も時折流れ寄っていた。これを持ち帰ったら、芽が出て大きな椰子の木にならんかしらんと考えたものだ。

昔はこうした漂流物も、島に取っては大事な資源だった。流れてきた木材や木切れは山に入らずにすぐ使える燃料になった。

他にもバケツや籠やロープの干切れもどこかで役に立つかも知れぬと持ち帰った。馬島では漂流物を拾いに行く事を「磯村屋」の方に行くと言っていて親しんでいたものだった。子供達も「磯村屋」の方で野球、サッカー、バレーの

ボールはどれだけ拾った事か。

女の子は弁当の中の菊や蘭の花の飾り、髪の毛の禿げたり力ちゃん人形、ママゴト用に中身の残った調味料など、親が見たら顔をしかめるような物を拾って戻った。

中でも、親を仰天させて慌てさせたのが、盆過ぎに流れ寄る精霊船。本当にキッチンと船の形が造ってあるし、周りには銀紙の幟が立てられ、お供えの茄子や胡瓜が残っている。

子供達に取っては宝船でも見つけたつもり。脇に抱えて意気揚々と家に帰って親に差し出すと、親は見た途端、大袈裟な位に顔をしかめ、慌てて子供を追い立てて「海に返して来い」と言う。そればかりか、親も着いてきてキッチンと海に押し出すまで見届ける。ワケわからん子供達に親は「んこんと精霊船の事を教え諭す。島の子供は一度はやったことが



写真 松田 翔剛

有るんじゃないだろうか。親を困惑させる物は他にも、金比羅様の木札や遭難者の為であろう卒塔婆など、色々あったものだ。
外海で銀色で長いリユウグウノツカイのような魚を見たこともあった。

この小さな島でも、随分ドラマチックな物が流れ寄っていたのだと思う。
今は余りドラマチックな事は起こらなくなったかに思える海。一見キレイに見える海だけど、目に見えない何か流れ寄る事の有りませんように。

若潮の会通信 No.29



文＝原田和保

5月26日(日)刈尾公会堂にて、安達壽富会長をはじめ来賓の方々を迎え、第5回若潮の会の総会(総勢18名)を開催しました。

昨年度の活動報告及び収支報告、新年度の活動計画及び予算案が承認され活動内容について意見交換を行いました。

続いて、7月6日(土)～7月7日(日)に第51回山口県離島青年会議を大津島地区において開催することが報告されました。

先日には、大津島を紹介する映像がドローンにより空中撮影されたとのことで、会議で見ることが今から楽しみです。

私は、初めての出席でしたが、若潮の会の強い絆を感じました。